

鎌倉市図書館ビジョン（案）第3次鎌倉市図書館サービス計画概要版 10月22日

鎌倉市図書館では、平成31年度から4年間の「第3次鎌倉市図書館サービス計画」（以下、「第3次計画」という。）の策定に先立ち、鎌倉市図書館の目指すべき姿を明確にすることが大切であると考え、鎌倉市図書館ビジョンを定めました。

この鎌倉市図書館ビジョンは、第2次鎌倉市図書館サービス計画（以下、「第2次計画」という。）のサービス方針である「図書館は生涯学習の拠点」、「鎌倉ならではの図書館」、「市民とともに創る図書館」をさらに発展させるものですが、現在私たち鎌倉市図書館を取り巻く状況の変化を踏まえ、改めて鎌倉市図書館の使命について考えを整理し、新たな基本方針を定め、今後4年間の目指すべき方向性を明示しました。

★ 鎌倉市図書館の現状と課題

鎌倉市図書館は、明治44年の開館から100年以上が経ちます。中央図書館に続き、腰越、深沢、大船、玉縄の地域館を設置し、一つの図書館として機能することで市民に身近な使いやすい図書館として親しまれています。また、専門職として司書を配置し、鎌倉という地と図書館の資料双方について深い知識を持った職員を育成し続けてきました。その成果として、鎌倉市のどの図書館でも、人と資料を結びつける専門的な能力を持った職員によるサービスを実現しています。

近年、図書館を取り巻く環境が大きく変化し、利用者ニーズへの対応、施設の老朽化、資料費の確保、図書館を利用しにくい方へのサービス、情報通信技術の進展への対応、職員の知識、技術の継承、市民協働の促進、近代史資料の活用などに課題を抱えています。特に、近代史資料については、昭和52年に現在の「近代史資料室」を開設し、幕末から昭和40年代までの近代史に関する資料を収集・整理・保存してきましたが、調査研究体制の継続に課題があること、収蔵スペースが狭隘化していること、資料の一部はデータベース化しているものの整理が追いつかず、利用者への資料提供ができていないことなど、体制や環境の改善が必要です。

★ 鎌倉市図書館の使命

- ① 多種多様な情報を収集、整理、保存、提供して、市民の知る権利を守り、「いつでも、誰でも、どこでも」望む情報を得ることができる環境を保障します。
- ② 鎌倉市は、中世、近世、近現代と、独自で多彩な歴史を有しますが、その歴史と文化は責任を持って後世まで保存・継承します。
- ③ 鎌倉市図書館は、市民とともに作りあげてきた図書館であり、これからも鎌倉の5地域に一館ずつ計5つの図書館を「いちばんそばの情報センター」として充実させ、市民の暮らしと学びを応援し、鎌倉市図書館ネットワーク全体の力で、人々の知りたい気持ちに寄り添い応える組織であり続けます。

★ 鎌倉市図書館の基本方針

鎌倉市図書館は、第3次計画期間において、中央図書館と各地域館が連携し、市民と協働してサービス提供に取り組みます。また、正規職員と非常勤職員との直営体制での効果的な運営を図ります。鎌倉市図書館の現状と課題や使命を踏まえ、

「つながる ひろがる、100年図書館」

を新たな基本方針として定め、図書館サービスの一層の充実を目指します。

1 つながる図書館

知りたい情報、求める資料（本・雑誌・CD・DVDなど）と市民をつなぎ、現在と過去、未来をつなぎます。幼、保、小、中、高、大学、文化施設、他自治体図書館等とつながり、質の高いサービスを提供します。さまざまな人々をつなぐ場となり、親しみやすく、あたたかい雰囲気がある、市民の居場所を目指します。

● 図書館サービスシステムの再検討

市内5図書館や近隣市図書館とのさらなる連携や、持続可能で効果的なサービスを提供できる開館日、開館時間の検討、安全性や費用対効果を考慮した施設の老朽化対応などにより、利用しやすい図書館を目指します。インターネット等情報通信技術を活用し、利用者の利便性の向上を図ります。市民や市民団体と協働でイベントの開催などを行うとともに、鎌倉文学館や鎌倉歴史文化交流館などの関係施設と連携します。

● 利用者に応じた読書の支援

「第3次鎌倉市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもと、子どもを取り巻く大人の読書活動を支援します。生活情報や医療情報の収集・提供を行い、大人への支援を充実させます。特に、さまざまな理由で図書館を利用しにくい方が、図書館を利用しやすくなるよう努めます。

● 資料情報の収集と提供

利用者の要望がもっとも高いのが、資料の充実ですが、資料管理方針及び基準に基づき、適切な蔵書構築に努めます。また、多様なリクエストに応えるため、鎌倉女子大学や他自治体図書館と引き続き連携していきます。資料購入費の維持・充実のため、新たな財源の確保を検討します。

● 課題解決支援

日々の暮らしや仕事の課題解決、調査研究の支援に加え、鎌倉という独特な歴史を持つ地の図書館としての使命を果たします。また、職員の能力向上を図るため、レファレンス等の必要な研修を段階的、継続的に受けられるようにします。

2 ひろがる図書館

市民参画・協働の図書館として、市民とともに図書館を成長させていきます。図書館での活動を通し、さまざまな世代が交流でき、市民の発信の場となるよう取り組みます。

● 図書館からの情報発信

中央図書館、地域館全館で、利用者にわかりやすい、統一した案内表示に取り組みます。図書館サービスやイベントについては、ホームページやツイッターなど活用し、必要な人に必要な情報を届けられるよう努めます。図書館の事業についても、市民に分かりやすい年次報告書（「鎌倉市の図書館」）を作成し、ホームページに公開します。また、図書館の情報紙である「図書館だより」を定期的に発行します。

● 市民とともに

年に一度の「ファンタスティック☆ライブラリー（図書館まつり）」をはじめとして、市民団体と協働で多種多様な行事を行っています。今後も個人や市民団体との協働を継続するとともに、新たな個人や市民団体が参加しやすい体制の構築に努めていきます。また、地域館においては、地域の市民団体と協力することにより、地域資料の充実につなげていきます。さまざまな機会を捉え、利用者の意見を図書館運営に反映していきます。

3 100年図書館

全国的にも貴重な鎌倉の歴史的遺産と文化を後世に伝えます。これまでの歩みを大切に、地域資料を通して歴史ある鎌倉の魅力を発信し、100年先の未来にも誇れる図書館を目指します。

● 鎌倉らしいコンテンツの製作と発信

網羅的な郷土資料の収集・保存ができるよう収集・保存マニュアルを作成します。収集した郷土資料の中で、広く一般公開できるようなものはデジタル化を図り、ホームページ上で公開します。近代史資料は広く後世に伝えるため、収集・保存を行っています。近代史資料担当の体制を整え、収集・保存環境の改善を図るとともに、鎌倉歴史文化交流館や鎌倉国宝館等と連携し、市民の財産である近代史資料を市民に還元できるよう努めます。

● 施設・設備の充実、危機管理体制の強化

中央図書館の耐震化を検討するとともに、「鎌倉市公共施設再編計画」に基づき、地域館の地域拠点校への統合、中央図書館の市役所跡地への移転を含めた建て替えや大規模修繕など、今後の状況の変化に合わせ、施設・設備の充実を図ります。

● サービスを支える職員の育成

市民や地域とともに鎌倉市図書館を創りあげていくためには、高い専門性を持つ職員の存在が不可欠です。そのため、現行の司書職、事務職員（司書資格取得者多数）、非常勤嘱託員（司書資格取得者多数）の構成の中で適切な人員を配置し、継続的に研修を行うことにより、職員を育成し、知識とスキルを継承していきます。

★ 鎌倉市図書館の中長期的展望

本市では、公共施設全体の最適化を図るため、「鎌倉市公共施設再編計画」や「鎌倉市公的不動産利活用方針」を定めており、中央図書館は鎌倉市役所跡地に移転する、地域館は地域拠点校に統合する方針になっています。これらの計画や方針を合わせ、鎌倉市図書館の施設や設備の更新を図り、新たな機能を加えていきます。

（１）中央図書館

鎌倉市役所跡地への移転前は、従来の機能に加え、職員・非常勤職員への研修機能、地域図書館へのサポートセンター機能、学校との連携を強化します。また、近代史資料の収集、保存、整理、提供を行う環境を整備します。電子図書館機能（デジタルアーカイブ、国会図書館デジタル化配信資料の閲覧、データベース、電子書籍等）の強化を検討します。

鎌倉市役所跡地移転後は、施設や設備の更新により、新たに IC タグ、Wi-fi、自動予約本受取機の導入・活用、電子書籍の貸出等の実現を目指します。

（２）地域館

地域拠点校への統合前は、既存の各行政センターの老朽化の状況に応じて建物を修繕し、建物の安全性を確保しながら、地域の居場所、身近な情報センターとしての機能を維持します。それに加えて、腰越、深沢、大船、玉縄の各地域の特色ある資料の収集・保存・活用します。

統合後は、施設や設備の更新や併設する施設の特性に合わせ、現在行っている図書館サービス機能の維持に加え、地域拠点校の学校図書室との連携や生涯学習施設等の他の統合施設との連携、各地域の特色ある資料の収集・保存・活用を行います。

★ おわりに

鎌倉市図書館は、資料の収集、整理、保存、提供を行うとともに、市民の居場所、人の集う場としての機能を担っていきます。そこでは、サービスの専門性の継続や蓄積、市民団体・学校・地域などとの連携が重要となることから、市民や地域とともに図書館を創りあげることができる職員の配置と一貫した図書館経営の継続が求められます。今後この計画に沿って、市自らが責任を持ち、市自らが直接運営することで、「つながる ひろがる 100 年図書館」の実現を目指します。